

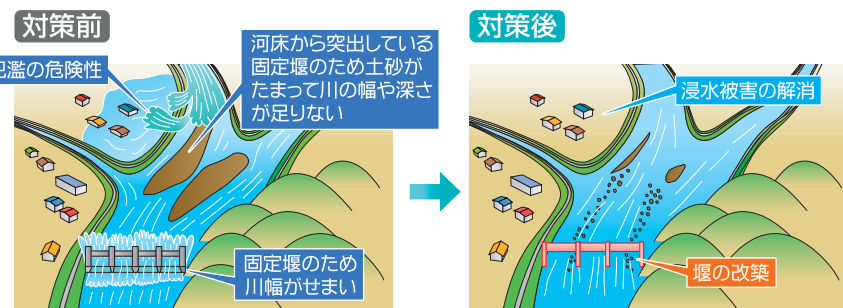
洪水を安全に流すために

洪水を安全に流すための具体的な対策

紀の川では、戦後最大洪水である伊勢湾台風と同じ量の雨が降って洪水が発生した場合、大きな被害を受けることが想定されます。これは、堤防が整備されていない箇所や水の流れにくい箇所があるため、その主な箇所は図に示す①～⑥です。なお、継続事業である紀の川大堰、大滝ダムの早期完成をめざし、支川の洪水が本川にうまく流れるための対策も引き続き行っていきます。

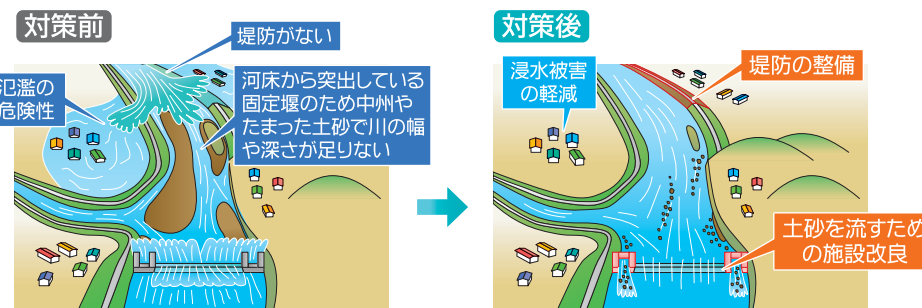


① 岩出狭窄部*の対策



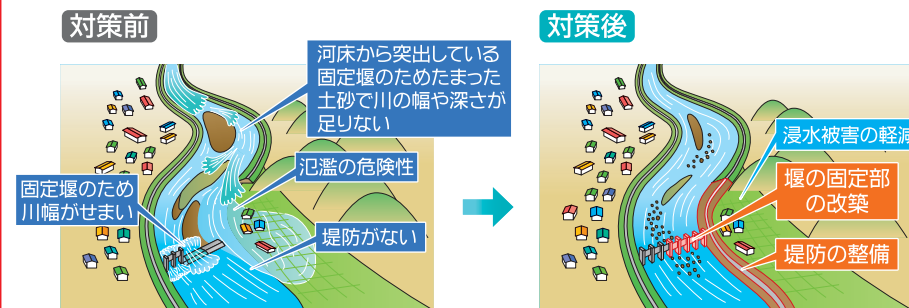
堰の改築により、目標とする洪水を安全に流すことができます。また、堰上流にたまった土砂が自然に流れ、周辺の浸水被害を解消します。

② 藤崎狭窄部の対策 麻生津地区の堤防整備



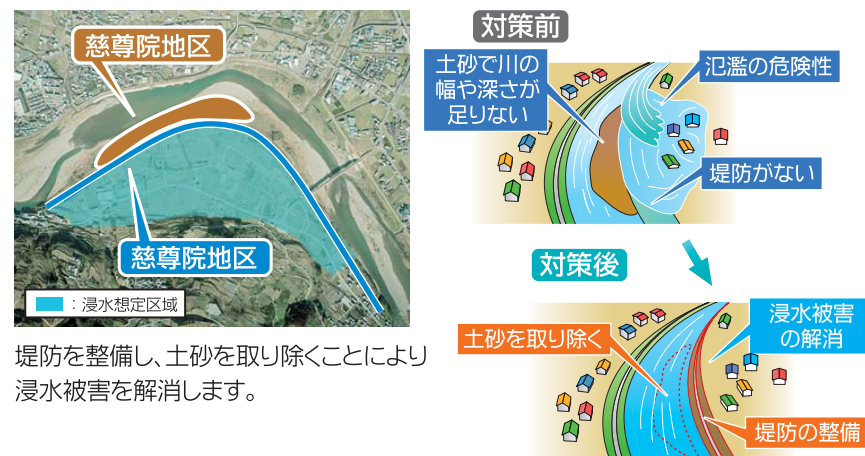
土砂を流すための施設の改良により、堰上流にたまった土砂が自然に流れ、川の幅や深さが広がり、目標とする洪水に対する浸水被害を軽減します。

③ 小田狭窄部の対策 安田嶋地区の堤防整備



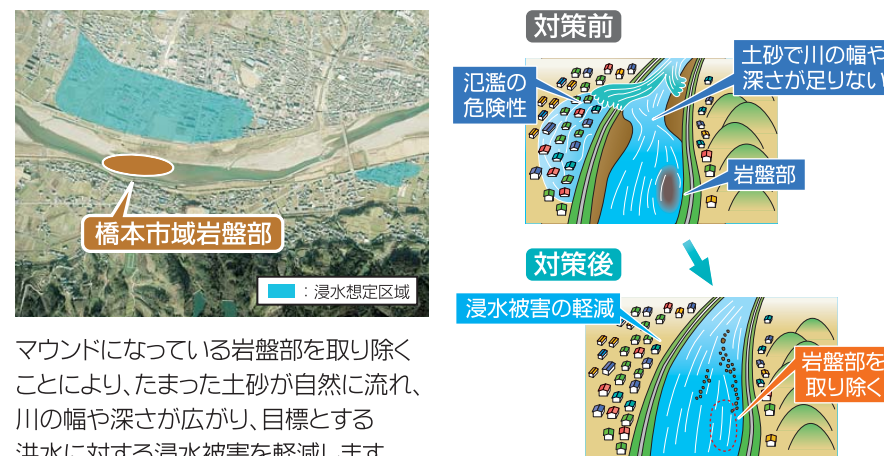
堰の改築により、堰地点において目標とする洪水を安全に流すことができます。また、堰上流にたまった土砂が自然に流れ、川の幅や深さが広がり、目標とする洪水に対する浸水被害を軽減します。

④ 慈尊院地区の掘削 慈尊院地区の堤防整備



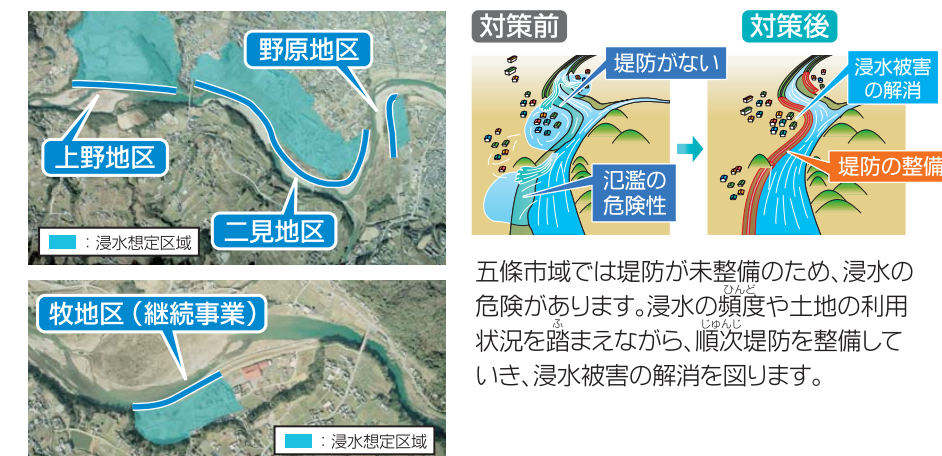
堤防を整備し、土砂を取り除くことにより浸水被害を解消します。

⑤ 橋本市域の岩盤部の除去



マウンドになっている岩盤部を取り除くことにより、たまった土砂が自然に流れ、川の幅や深さが広がり、目標とする洪水に対する浸水被害を軽減します。

⑥ 五條市域の堤防整備



五條市域では堤防が未整備のため、浸水の危険があります。浸水の頻度や土地の利用状況を踏まえながら、順次堤防を整備していき、浸水被害の解消を図ります。